

成長・貢献・感謝

羽地中学校
学校だより115号
R1. 10. 21

2年生は16日(水)、国立劇場おきなわで開催された組踊鑑賞教室「執心鐘入」を鑑賞しました。教室初日でしたが、平日の午前中とあって、団体は羽地中だけの貸し切り状態でした。名護市民会館より小さめの舞台。第一部は、組踊りの楽しみ方を40分で解説。丁寧に組踊の歴史や発展、舞台の仕組みや組踊の見方、などを飛び入り参加のA・S

さんと共に学びました。休憩を挟んで、いよいよ実演。演目は、玉城朝薫の「朝薫の五番」でも人気の高い「執心鐘入」。ウチナー口でしたが、両脇に字幕があり、分かりやすい内容でした。歌三線や独特の台詞、演者の仕草からも、心情表現が素晴らしく、徐々に高まっていく心の動きや葛藤が音楽の効果と相まって見応えのある一番でした。さすが、芸能文化レベルの高い沖縄県を再認識しました。感激。



組踊鑑賞教室 執心鐘入

はじめての組踊 ~Discover KUMIODORI~ 「執心鐘入」

第一部 16・17・18日公演 組踊の楽しみ方
19日公演 組踊版・シンデレラ

第二部 執心鐘入

生徒の感想・振り返り
初めて組踊を観て感じたことは台詞がともゆっくりなので、聞いているうちにだんだんと眠たくなりました。しかし、後半から女が鬼に変わり始めると、地謡の太鼓のリズムが早くなったり、大きくなったりして、緊迫感が出ていました。女も般若の鬼面をつけて、右手に鎌のようなものを振りかざしながら走ってくる姿は、いかにも「鬼」の感じがよく伝わってきました。これこそが、台詞、音楽、踊りが合わさってできる組踊の素晴らしさだと思います。組踊を鑑賞する際に大切なのは、観る人の想像力だと言っていたので、自分なりに想像力を広げて、観ることができました。

番でした。さすが、芸能文化レベルの高い沖縄県を再認識しました。感激。



「執心鐘入」を初めて観ました。昔の劇も面白いらしいと感じました。話している内容が方言なので、通じないかなと思っていましたが、少しは、文字を見なくても聞き取れていたの、はまってしまいました。私が一番印象に残っていることは、顔の表情や話し方の強弱で心情が伝わると言うことです。若松と女が話している時、女がとても悲しそうなお顔をしていたのが、すごいなと思いました。また、地謡の人達が心情に合わせて歌を伸ばしたり、会話しているときは静かにしたりと、とてもきつかったんじゃないかなーと思います。また、昔の人は旅に出るときは、笠をかぶって旅することを知りました。もっと、昔のことを知り、学びたい。



初めて組踊を観ました。台詞がとも独特でしたが、意味が表示されていて、分かりやすかったです。執心鐘入は、とても面白くてすこかったです。第一部で説明があったので、いろいろなことを考えながら観ることができ、第一部があつて良かったと思います。後ろの三線や太鼓の演奏が良くて、とても感

動しました。特に最後のシーンは、太鼓の効果音が素晴らしいと思います。舞台上で踊っている人も、皆で組踊ができています。

